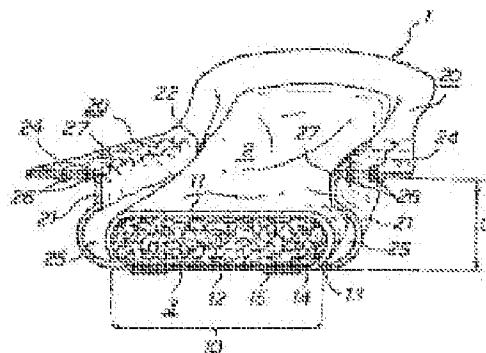


**ABSORBING ARTICLE****Publication number:** JP8182702 (A)**Publication date:** 1996-07-16**Inventor(s):** SUZUKI YOICHI; KONNO REIKO; TOYOSHIMA YASUO; NAKANISHI MINORU +**Applicant(s):** KAO CORP +**Classification:****- international:** A61F13/15; A61F13/494; A61F13/514; A61F13/15; (IPC1-7): A61F13/15**- European:****Application number:** JP19940326367 19941227**Priority number(s):** JP19940326367 19941227**Also published as:**

JP2952175 (B2)

**Abstract of JP 8182702 (A)**

**PURPOSE:** To provide an absorbing article ideal for night and for a long-time use by achieving excellence in fitness to a part in contact with a discharging part of a user in wearing to reduce the possibility of side-wise and rear-wise leakage. **CONSTITUTION:** A central absorbing body part 10 includes a top sheet 11, a back sheet 12 and an absorbing body 13 and a flap 20 is formed on both left and right side parts of the central absorbing body part 10. In the flap 20, leakproof walls 21 are arranged successively on the non-skin contact side, positioned on both left and right side rims of the central absorbing body part 10 being bent toward the top sheet side thereof and then, folded back outward from the central absorbing body part 10 to form a leakproof surface.; The leakproof walls 21 are fixed on the central absorbing body part 10 at the front and rear portions of a part in contact with a discharging part of a user in wearing and the leakproof surface at the above part is formed in a surface almost parallel with the skin contact face of the central absorbing body part 10.



.....  
Data supplied from the **espacenet** database — Worldwide



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、両シート間に配されてなる吸収体とを具備する中央吸収体部、及び該中央吸収体部の左右両側部に設けられたフランプを有する吸収性物品において、

上記フランプは、上記吸収性物品の非肌当接面側に連設されており、また、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部の左右両側縁に位置する防漏壁をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部の外方に向け折り返されて防漏面を形成しており、

上記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されている、

ことを特徴とする吸収性物品。

【請求項2】 上記防漏面に弾性部材が配されていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項3】 上記フランプは、上記トップシートの延長部と上記バックシートの延長部とを貼り合わせて形成されていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項4】 上記フランプは、上記トップシート又は上記バックシートにより形成されていることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

【請求項5】 上記フランプは、上記トップシート及び上記バックシート以外の他のシートにより形成されており、該他のシートは、防水処理を施したシート又は液不透過性シートであることを特徴とする請求項1記載の吸収性物品。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、生理用ナプキン等の体液を吸収するために肌に接触して着用される吸収性物品に関し、詳しくは、特に横漏れの防止性能に優れた吸収性物品に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】 従来より、紙おむつ、生理用ナプキン等の吸収性物品は、種々提案されており、実用に供されているが、横漏れにより使用者の着衣を汚損することがあり、これにより使用者に不快感を与えるといった問題があるため、この問題を解消すべく種々改良がなされている。

【0003】 例えば、吸収性物品の長手方向両側に防漏壁を形成すること、吸収性物品自体の形状を予め装着部位の形状に対応した形状すること、弾性体を設けて装着時における形態の変化に追従しうるようにすること等が提案されており、具体的には、実公昭60-19693

号公報には、トップシートとバックシートとを左右両側方で貼り合わせたフランプ部分を吸収性物品の表面に折り曲げてなる吸収性物品が提案されており、特公昭60-3491号公報には、トップシートとバックシートとを左右両側方で貼り合わせたフランプ部分を吸収性物品の表面に折り曲げた後、更に外側に向けて折り返してなる吸収性物品が提案されている。

【0004】 しかし、上述の吸収性物品は、使用者が排泄部を吸収体中央部に位置させ、身体に密着した下着を着用する装着状態では、吸収体本体からの液漏れを低下させるものの、未だ完全に液漏れを抑制するには至っていない。特に、実際の使用時においては、吸収性物品の装着状態が上述の装着状態ばかりではなく、排泄部が吸収体の中央部よりズレた状態で装着されたり、装着された吸収性物品が着用者の動きによる複雑な形態に追随し得ず、吸収性物品と装着部位との間に隙間ができたりする場合があり、このような場合、上述の吸収性物品では着用者の満足のいく液漏れ防止効果が得られないのが現状である。また、上述の吸収性物品は、いずれも折り曲げたフランプ部分の前後両端を、吸収性物品の前後両端部において吸収性物品と接着させたものであり、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性が十分ではなく、依然として横漏れを生じるものであった。

【0005】 従って、本発明の目的は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に優れ、横漏れの生じる惧れが少ない吸収性物品を提供することにある。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明者等は、上記問題点を解消するために鋭意検討した結果、特定形状のフランプを有する吸収性物品が、上記目的を達成し得ることを知見した。

【0007】 本発明は、上記知見に基づいてなされたもので、液透過性のトップシートと、液不透過性のバックシートと、両シート間に配されてなる吸収体とを具備する中央吸収体部、及び該中央吸収体部の左右両側部に設けられたフランプを有する吸収性物品において、上記フランプは、上記吸収性物品の非肌当接面側に連設されており、また、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部の左右両側縁に位置する防漏壁をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部の外方に向け折り返されて防漏面を形成しており、上記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されている、ことを特徴とする吸収性物品を提供するものである。

## 【0008】

【作用】本発明の吸収性物品は、非肌当接面側に連設されたラップが、上記中央吸収体部のトップシート側に向けて折り曲げられて防漏壁を形成しており、更に折り返されて防漏面を形成している。また、上記防漏壁は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部において上記中央吸収体部に固定されており、これにより、上記の排泄部に当接する部位における上記防漏面が上記中央吸収体部の肌当接面と略平行な面状に形成されている。そして、本発明の吸収性物品である生理用ナプキンは、このような構造を有することにより、ラップと中央吸収体部との間にサイドポケットが形成され、上記トップシートの表面より体液が流れても該体液がラップを伝わって漏れることなく、また、防漏面を生理用ナプキンの肌当接面よりも高い位置に設けることができるので、吸収体がよれて厚くなってしまってもフィット性が低下することがない。また、防漏面が装着時に着用者の肌に沿って広がり、ラップが吸収体に折り込まれることがないため、安定してサイドポケットが形成され、更には、吸収体のよれが抑制される。

#### 【0009】

【実施例】以下、図面を参照して本発明をより具体的に説明する。ここで、図1は、本発明の吸収性物品の第1の実施例としての生理用ナプキンを示す斜視図であり、図2は、図1に示す生理用ナプキンの断面斜視図（ナプキンの長手方向中央部にて幅方向に断面をとり、該断面からナプキンの前方部にかけて示す斜視図）である。

尚、図2において、断面形状は、模式的に示してある。

また、図3は、図1に示す生理用ナプキンの平面図であり、図4は、図1及び図3に示す生理用ナプキンの断面を示す模式図であり、図4（A）は、図3のI—I断面を示す模式図であり、図4（B）は、図3のII-II断面を示す模式図であり、図4（C）は、図3のIII-III断面を示す模式図であり、図4（D）は、図3のIV-IV断面を示す模式図である。

【0010】図1～図4に示す本実施例の生理用ナプキン1は、液透過性のトップシート11と、液不透過性のバックシート12と、両シート間に配されてなる吸収体13とを具備する中央吸収体部10、及び該中央吸収体部10の左右両側部に設けられたラップ20を有する。このような構造は、通常の生理用ナプキンと同様の構造である。

【0011】更に、本実施例の生理用ナプキン1について説明すると、上記トップシート11及び上記バックシート12は、それぞれ延長部を有するように、上記吸収体13よりも全体に大きく形成されている。そして、上記ラップは、上記トップシートの延長部と上記バックシートの延長部とを貼り合わせて形成されている。また、これにより、前方縁部4及び後方縁部5を形成している。ここで、上記トップシート11及び上記バックシート12は、ヒートシール法、接着剤法等の通常の方法

によって貼り合わされている。

【0012】また、上記吸収体13は、図2及び図4に示すように、吸収体固定剤14を介して上記バックシート12に固定されている。

【0013】また、上記生理用ナプキン1の中央吸収体部10における非肌当接面3側の左右両側には、生理用ナプキン1の使用時において該生理用ナプキン1をショーツに貼着するためのズレ止剤15が設けられている。

【0014】上記トップシート11及び上記バックシート12を形成する材料としては、通常、生理用ナプキン等の吸収性物品のトップシート及びバックシートとして用いられるものであれば特に制限なく、用いることができる。また、上記吸収体13は、パルプ及び高吸収性ポリマー等からなる通常公知の吸収体を特に制限なく用いることができる。更に、上記吸収体固定剤14及び上記ズレ止剤15としては、通常、生理用ナプキン等の吸収性物品に用いられる接着剤を特に制限なく、用いることができる。

【0015】而して、本実施例の生理用ナプキン1は、図1～図3に示すように、上記ラップ20が、上記生理用ナプキンの非肌当接面3側に連設されており、また、上記中央吸収体部10のトップシート11側に向けて折り曲げられて、上記中央吸収体部10の左右両側縁に位置する防漏壁21をそれぞれ形成しており、更に、上記中央吸収体部10の外方に向けて折り返されて防漏面24を形成しており、上記防漏壁21は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位6の前方部及び後方部において上記中央吸収体部10に固定されており、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏面24が上記中央吸収体部10の肌当接面2と略平行な面状に形成されている。

【0016】更に詳細に説明すると、図2及び図4（A）～（D）に示すように、上記トップシート11は、上記吸収体13の側面を覆って、その延長部を上記バックシート12の延長部に貼り合わせられており、これにより、上記トップシート11の延長部と上記バックシート12の延長部とにより形成される上記ラップ20が、上記非肌当接面3側に連設されている。

【0017】また、上記ラップ20は、図2及び図4（A）～（D）に示すように、上記中央吸収体部10の側縁において折り曲げられることにより、上記防漏壁21を形成しており、更に、図2及び図4（B）～（D）に示すように、生理用ナプキン1の肌当接面2よりやや上方にて上記中央吸収体部10の外方に向けて折り返されて、上記防漏面24を形成している。

【0018】また、上記防漏壁21は、上記の排泄部に当接する部位6の前方部及び後方部において、前方部の固定部22〔図1、図3及び図4（B）参照〕及び後方部の固定部23〔図1、図3及び図4（D）参照〕を介して上記中央吸収体部10における上記トップシート1

1に固定されている。ここで、上記の「排泄部に当接する部位」とは、生理用ナプキンの使用時において、着用者の排泄部に当接される生理用ナプキンの表面部分を指し、具体的には、生理用ナプキンの長手方向に対する上記固定部22と上記固定部23との間に位置する部分である。また、上記「前方部」とは、上記の排泄部に当接部位6よりも前方（着用者における前側）に位置する部分の全てを指し、上記前方縁部も含む。更に、上記「後方部」とは、上記の排泄部に当接部位6よりも後方（着用者における後側）に位置する部分の全てを指し、上記後方縁部も含む。また、上記固定部22、23は、通常、吸収性物品に用いられる接着剤等を用いて又はヒートシール等により容易に形成することができる。

【0019】そして、このように、固定されていることにより、図2及び図4（C）に示すように、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏壁21と上記中央吸収体部10との間にサイドポケット25が形成されている。また、図2、図3及び図4（C）に示すように、上述の如く固定されていることにより、上記の排泄部に当接する部位6における上記防漏面24が、上記肌当接面2のやや上方において、上記中央吸収体部10の肌当接面2と略平行な面状に形成されている。

【0020】また、図1～4に示すように、本実施例の生理用ナプキン1は、上記前方縁部4及び後方縁部5において上記フラップ20をヒートシールせずに、前方部の固定部22より前方（生理用ナプキンにおける使用時に着用者の前側に位置する部位）及び後方部の固定部23より後方（生理用ナプキンにおける使用時に着用者の後側に位置する部位）においては、それぞれ前方又は後方に向かうに従って次第に上記の折り返された状態が解除されて、上記フラップ20を略フラットな面状形状としている。このように形成することにより、上記防漏面24の肌当接面2との略平行な形状及び上記サイドポケット25で安定して形成・保持することができる。

【0021】また、本実施例の生理用ナプキン1において、上記排泄部に当接する部位6の長さLは、好ましくは3～20cmであり、更に好ましくは5～15cmである。また、上記生理用ナプキン1において、上記固定部22より前方に位置するナプキン前方部の長さMは、好ましくは0～10cmであり、更に好ましくは2～8cmである。更に、上記生理用ナプキン1において、上記固定部23より後方に位置するナプキン後方部の長さNは、好ましくは3～25cmであり、更に好ましくは5～18cmである。

【0022】また、上記排泄部に当接する部位6における上記防漏面24の幅Sは、好ましくは0.5～4cmであり、更に好ましくは0.7～2.5cmである。

0.5cm未満であると、上記防漏壁21が中央吸収体部10上に伏倒してサイドポケット25が形成されない場合があり、4cmを超えると、防漏面24の平面形状

が維持し難く、更には、液漏れを誘発する場合があるので、上記範囲内とするのが好ましい。また、上記防漏面24の高さ（非肌当接面3からの高さ）U（図2参照）は、好ましくは40mm以下、更に好ましくは5～25mmである。また、上記排泄部に当接する部位6における左右両防漏面24間の幅Tは、該防漏面24が中央吸収体部10の肌当接面2を塞がないように、30mm以上であるのが好ましい。

【0023】本実施例の生理用ナプキン1は、上述の如き構造を有しているので、上記防漏面24が着用者の肌に良好にフィットし、横漏れを効果的に防止することができるものであり、具体的には上記サイドポケット25が形成されることにより、上記トップシート11の表面を流れた排泄物が上記サイドポケット25に一旦流入した後、上記中央吸収体部10の側面から上記吸収体13に吸収され、横漏れを効果的に防止することができるものである。

【0024】また、本実施例の生理用ナプキン1は、上記防漏面24の上記の排泄部に当接する部分にそれぞれ弹性部材26が配されている。上記弹性部材26が配されていることにより、上記防漏壁21の形状が良好に維持され、また、上記防漏面24の上記中央吸収体部10の肌当接面2と略平行な面状形状が良好に維持され、更には着用者に対するフィット性がより向上される。また、このように防漏面24〔折り返し線27（図2参照）より外方〕に弹性部材26を配することにより、上記サイドポケット25形状を大きくすることができ、横漏れを効果的に防止することができる。上記弹性部材26としては、通常、吸収性物品に用いられる弹性部材であれば、特に制限されないが、ポリオレフィン類、ポリウレタン類の発泡体や天然ゴム等を特に好ましく用いることができる。また、その形状は、紐状、フィルム状、平面状等の形状とすることができ、本実施例においては、紐状の弹性部材を用いている。また、該弹性部材26の本数は特に制限されないが、該弹性部材26が紐状の形状である場合、2本以上であるのが、形状保持、横漏れ防止の点から効果的である。また、上記弹性部材26は、上記の弹性部材26を配した上記フラップ20の20%伸長時の応力が100g以下となるような弹性力を有するものを用いるのが好ましい。尚、本発明の吸収性物品は、上述の実施例に限定されるものではなく、例えば、使い捨ておむつ等に適用することもできる。

【0025】次に、本発明の吸収性物品の第2～第5の実施例について、図5～図8を参照して説明する。ここで、図5は、本発明の吸収性物品の第2の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当図〕であり、図6は、本発明の吸収性物品の第3の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当図〕であり、図7は、本発明の吸収性物品の第4の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当

図】であり、図8は、本発明の吸収性物品の第5の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当図〕である。尚、第2の実施例～第5の実施例において特に説明しない点は上述した第1の実施例と同じである。

【0026】図5に示す第2の実施例の生理用ナプキン1は、上記フランプ20が、上記トップシート11により形成されている。具体的には、上記トップシート11を非肌当接面3側で一端上記バックシート12と接合し、更に、左右両側縁を外方に向けて延長して形成されており、これにより、上記フランプ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フランプ20は、上記の第1の実施例におけるフランプ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縁で非肌当接面3に向けて折り返されており、弾性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。

【0027】図6に示す第3の実施例の生理用ナプキン1は、上記フランプが、上記バックシートにより形成されている。具体的には、上記バックシート12を非肌当接面3側で一端上記トップシート11と接合し、更に、左右両側縁を外方に向けて延長して形成されており、これにより、上記フランプ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フランプ20は、上記の第1の実施例におけるフランプ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縁で非肌当接面3に向けて折り返されており、弾性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。

【0028】図7に示す第4の実施例の生理用ナプキン1は、上記フランプ20が、上記トップシート11及び上記バックシート12以外の他のシート30により形成されている。

【0029】上記の他のシート30としては、防水処理を施したシート又は液不透過性シート等を用いることができる。上記の防水処理を施したシートとしては、撥水性油剤で処理した不織布等を挙げることができ、上記の液不透過性シートとしては、エチレン、ポリプロピレン等のプラスチックシート、又は不織布をラミネート加工したシート等を挙げることができる。

【0030】更に詳述すると、上記トップシート11は、吸収体13の左右両側面を覆って非肌当接面3側の

左右両側縁まで被覆しており、上記他のシート30は、その縁部が、非肌当接面3側において、上記トップシート11と上記バックシート12とにより挟持固定されており、これにより、フランプ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フランプ20は、上記の第1の実施例におけるフランプ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縁で非肌当接面3に向けて折り返されており、弾性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。

【0031】図8に示す第5の実施例の生理用ナプキン1は、上記フランプ20が、上記トップシート11及び上記バックシート12以外の上記の他のシート30により形成されており、更に、非肌当接面3側には、上記吸収性物品1の使用時に下着と固定させるための粘着部41を有するウイング部40が設けられている。

【0032】更に詳述すると、上記トップシート11は、吸収体13を、その左右両側面を覆って非肌当接面3側の左右両側縁まで被覆しており、上記他のシート30は、非肌当接面3側において、上記トップシート11と上記バックシート12とにより挟持固定されており、これにより、フランプ20が上記非肌当接面3側に連設されている。そして、上記フランプ20は、上記の第1の実施例におけるフランプ20と同様にして防漏壁21及び防漏面24を形成しており、該防漏面24の側縁で非肌当接面3に向けて折り返されており、弾性部材26は、この折り返された部分と該防漏面24とで挟持されて配されている。また、上記ウイング部40は、上記バックシートの左右両側縁部を吸収体の左右両側縁から外方に向けて延長して形成されており、上記粘着部41は、上記ウイング部の非肌当接面3側に粘着剤を塗布して形成されている。該粘着剤としては、通常公知の粘着剤を特に制限なく用いることができる。

【0033】上記の第2～第5の実施例においても上述の第1の実施例と同様の効果が奏される。

【0034】次いで、図9及び10を参照して、本発明の吸収性物品の第6の実施例について説明する。ここで、図9は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナプキンを示す平面図であり、図10は、図1に示す生理用ナプキンのV-V断面を示す模式図である。尚、特に説明しない点については、上述した第1の実施例と同様に形成されている。また、図9におけるII-II断面図～IV-IV断面図は、それぞれ図4（B）～（D）と同じである。

【0035】而して、本実施例の生理用ナプキン1は、図9及び図10（A）に示すように、生理用ナプキン1の前方縁部4において、折り返されたフランプ20は、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールされて、固定されている。また、図9及び図10（E）に示すように、後方縁部5において、上記フラン

フ20は略フラットな面状形状をなしている。即ち、本実施例の生理用ナプキン1は、固定部22より前方（生理用ナプキンにおける使用時に着用者の前側に位置する部位）においては、上記中央吸体部10と上記フラップ20とが当接する部分の全域に上記サイドポケットが形成されるように構成されており、固定部23より後方（生理用ナプキンにおける使用時に着用者の後側に位置する部位）においては、後方に向かうに従って次第に上記の折り返された状態が解除されて、上記フラップ20がフラットな形状となるように、構成されている。

【0036】本実施例の生理用ナプキン1は、上述の如き構造を有しているので、特に横漏れ及び後ろ漏れを効果的に防止することができるものであり、夜用又は長時間用として好適である。

【0037】尚、本発明の吸収性物品は、上述の実施例に限定されるものではなく、例えば、図1～図4に示す第1の実施例において、下記の如き構成とすることもできる。即ち、本発明の生理用ナプキン1においては、その前方縁部4及び後方縁部5において、折り返されたフラップ20を、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールして、固定してもよい。これにより、上記の排泄部に当接する部位6における上記フラップ20の形状を良好に維持することができ、更には、上記中央吸体部10と上記フラップ20とが当接する部分の全域に上記サイドポケットを形成することができる。

【0038】また、図1～4に示す第1の実施例のように、前方縁部4及び後方縁部5において、折り返されたフラップ20を、その折り返された状態のまま防漏面を上にしてヒートシールして、固定した場合には、上記の前方部及び後方部の固定点22、23を固定しなくてもよい。更に、第1の実施例では、図4（D）に示すように、上記中央吸体部10の表面（肌当接面）で上記防漏壁21をトップシート11に固定した例で説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、上記中央吸体部10の側方で上記防漏壁21をトップシート11に固定してもよい。

【0039】また、図1～4に示す第1の実施例においては、防漏壁の中央吸体部への固定を点状に固定した例により説明したが、線状（吸収性物品の長手方向に沿った線状）に固定することもできる。この際、該線状の固定は、上記固定点と同様に接着剤又はヒートシール等により固定することができ、また該線状に固定して形成される固定部の長さは任意であり、上記の排泄部に当接する部位の前方部及び後方部に形成される固定部の少なくとも何れか一方は、前方縁部又は後方縁部まで及んでいてもよい。

#### 【0040】

【発明の効果】本発明の吸収性物品は、着用時に使用者の排泄部に当接する部位に対するフィット性に優れ、横漏れの生じる惧れが少ないものであり、具体的には、下

記効果～が奏される。

フラップと中央吸体部との間にサイドポケットが形成され、上記トップシートの表面より体液が流れても該体液がフラップを伝わって漏れることがない。

防漏面を生理用ナプキンの肌当接面よりも高い位置に設けることができるので、吸収体がよれて厚くなってしまふフィット性が低下することがない。

防漏面が装着時に肌に沿って広がり、フラップが吸収体に折り込まれることなく、安定してサイドポケットを形成することができる。

防漏面が肌に沿って広がることにより吸収体のよれが抑制される。

防漏壁と防漏面とにより液モレが抑制される。

防漏面により、フラップの肌に対する広がりを促進でき、肌に対するフィット性を向上させて、違和感を低減させることができる。

前後方縁部にてフラップを固定せずに、前後方縁部では該フラップが外方に開放して略フラットな面状形状をなすようにした場合には、この開放されたフラップにより、防漏面の肌当接面に対する略平行な形状及び防漏壁により形成されるサイドポケットを安定して形成、保持することができる。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、本発明の吸収性物品の第1の実施例としての生理用ナプキンを示す斜視図である。

【図2】図2は、図1に示す生理用ナプキンのA-A'断面斜視図である。

【図3】図3は、図1に示す生理用ナプキンの平面図である。

【図4】図4は、図1及び図2に示す生理用ナプキンの断面を示す模式図であり、図4（A）は、I-I断面を示す模式図であり、図4（B）は、II-II断面を示す模式図であり、図4（C）は、III-III断面を示す模式図であり、図4（D）は、IV-IV断面を示す模式図である。

【図5】図5は、本発明の吸収性物品の第2の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当図〕である。

【図6】図6は、本発明の吸収性物品の第3の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当図〕である。

【図7】図7は、本発明の吸収性物品の第4の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当図〕である。

【図8】図8は、本発明の吸収性物品の第5の実施例としての生理用ナプキンを示す断面図〔図4（C）相当図〕である。

【図9】図9は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナプキンを示す平面図である。

【図10】図10は、図9に示す生理用ナプキンの断面

を示す模式図であり、図10 (A) は、I—I断面を示す模式図であり、図10 (E) は、V—V断面を示す模式図である。

【符号の説明】

|           |            |
|-----------|------------|
| 1 生理用ナプキン | 14 吸収体固定剤  |
| 2 肌当接面    | 15 ズレ止剤    |
| 3 非肌当接面   | 20 フラップ    |
| 10 中央吸収体部 | 21 防漏壁     |
| 11 トップシート | 22 固定部     |
| 12 バックシート | 23 固定部     |
| 13 吸収体    | 24 防漏面     |
|           | 25 サイドポケット |
|           | 26 弹性部材    |
|           | 30 他のシート   |
|           | 40 ウイング部   |

【図1】

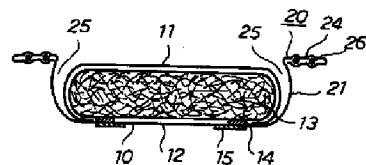
【図2】

【図4】

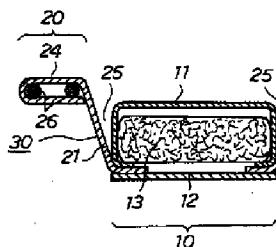
【図5】

【図3】

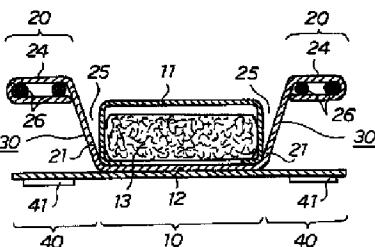
【図6】



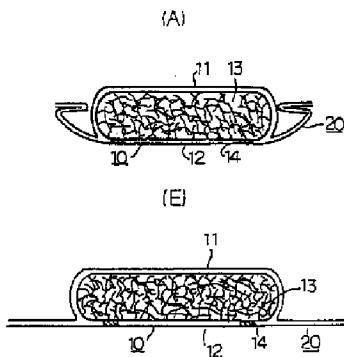
【図7】



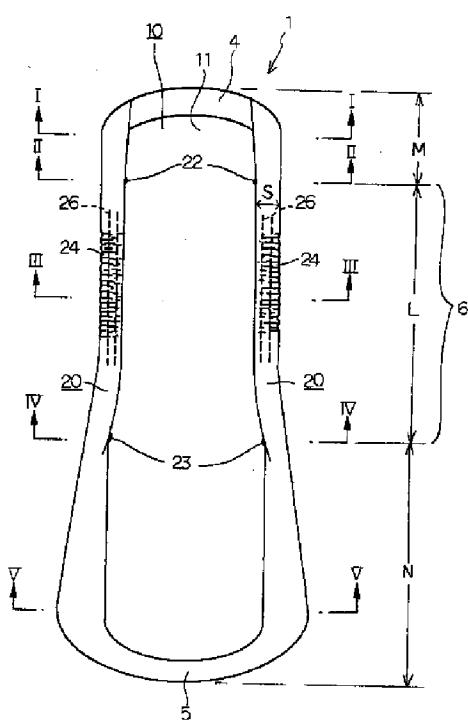
【図8】



【図10】



【図9】



## 【手続補正書】

【提出日】平成7年3月16日

## 【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0034

【補正方法】変更

## 【補正内容】

【0034】次いで、図9及び10を参照して、本発明の吸収性物品の第6の実施例について説明する。ここで、図9は、本発明の吸収性物品の第6の実施例としての生理用ナプキンを示す平面図であり、図10は、図9に示す生理用ナプキンの断面を示す模式図であり、図10(A)は、I-I断面を示す模式図であり、図10

(E)は、V-V断面を示す模式図である。尚、特に説明しない点については、上述した第1の実施例と同様に形成されている。また、図9におけるII-II断面図～IV-IV断面図は、それぞれ図4(B)～(D)と同じである。

## 【手続補正2】

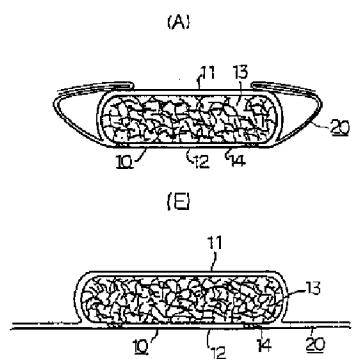
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図10

【補正方法】変更

## 【補正内容】

【図10】



フロントページの続き

(72)発明者 中西 稔  
栃木県河内郡南河内町緑三丁目23-11